

天象列次分野之図 韓国の星空のこと

先日、松阪市天文台のこどもクラブの冒頭で、天文台仲間の鄭さんが韓国の星座の話をしてくださいました。そのときに披露してくれたのが、右の図であります。

よく見るとあちこちに見覚えのある星の並びがありますが、かなり様式化されていて、どの星が今の星座に該当するのか見当をつけにくい部分も多くあります。天文ソフトの Stellarium には、韓国の星座を表示する機能があるので、照らし合わせをしてみると、わかりにくい部分の星の配置が少し見えてきます。

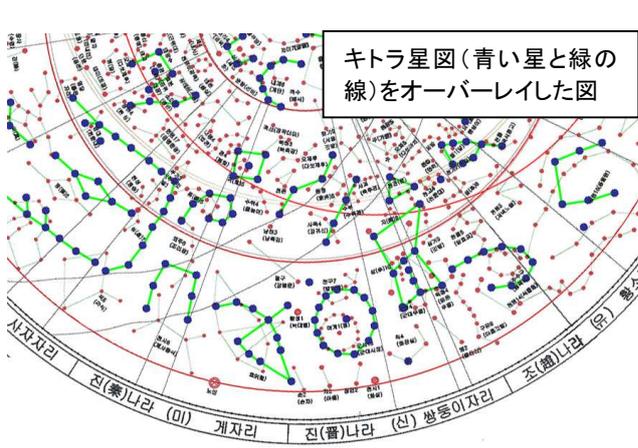
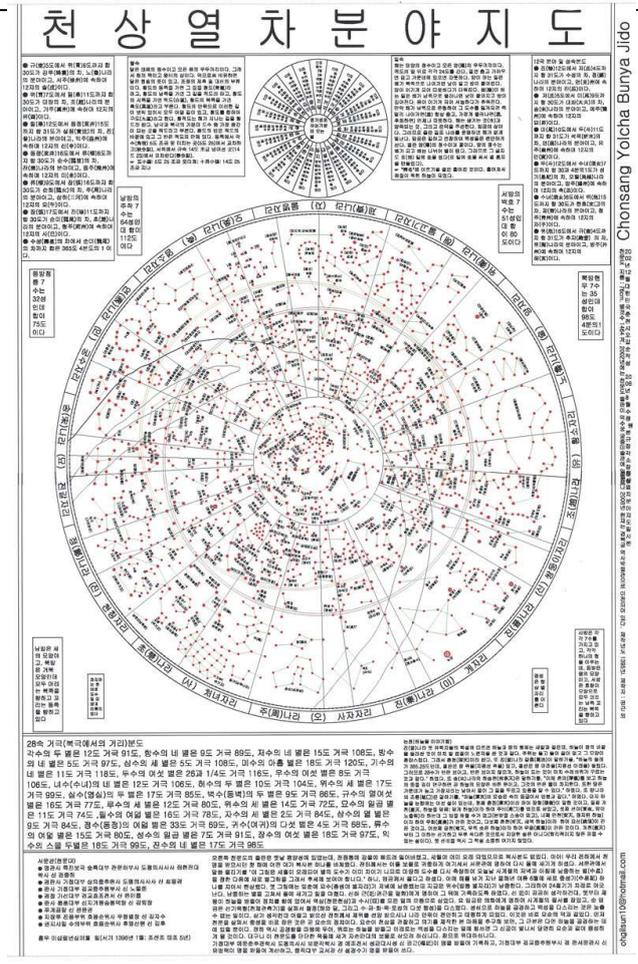
一方で、周囲の文字のほうは、自分はハングル文字はトントカイモなので何が書いてあるのやわかりません。でも、よくよく調べてみると、14世紀に高句麗で作成された「天象列次分野之図」とレイアウトも星の配置も同じであることがわかり、ハングル文字に直したコピーになっていたことが判明しました。朝鮮王朝の歴史を現代語訳してこのような印刷に蘇らせていることに感心します。

さて、この時代の星図は、星の明るさに区別がありません。光害など無い時代の星空ですから、暗い星もしっかりと見えていたのでしょうか、それにしてもこの星図だけから実際の星空の星々を線で結んで実用にするのは至難の業だったろうなあと考えてしまいます。また、おおいぬ座からとも座あたりの星が妙にいいかげんでカノープスの位置が大きくずれているなど、あちこちを見回していると、不自然さを感じる面白い箇所がたくさんあって飽きません。

とりあえずは、この星野並びを正確な星図上におとしてみたいなあとと思っています。そうしたら、まだまだ発見がありそうな予感がします。

ところで、古い星図というと、日本ではキトラ古墳の天井図が有名です。キトラの星図も、星の明るさの区別が無く、円の描き方なども同じで、ルーツの類似性を感じられますが、元になる星図があって、これを書き写したものでしょうか、先の星図以上に様式化・模様化されていて、黄道の位置が完全にずれているなど、いわゆる「星図」と考えるのに抵抗を感じます。

それでも、作成された年代が500年ほど違うということを考え合わせると、時間の流れが緩やかだったのか、伝統がきちんと守られたのか、星の結び方が結構似ているところがあって、感心してしまいます。



たった1枚の星図のコピーですが、改めて調べると、いろいろ出てきそうで、楽しくなります。この星図と、パソコンの天体シミュレーションソフトで夏休みの宿題は完璧です。誰かやらない？

Cheonsang Yeolchubun Yajido

Books & CDs 天球図の歴史／ピーター・ウットフィールド

西洋の星図の変遷を詳しく紹介してくれる図鑑であります。エジプト時代の星図から始めて、近年の観測用紙星図まで、その歴史を辿りながら、星座の歴史を知ることができる好書です。

年代を追うごとに星の位置や明るさの表示などが精密になっていく様子や、星座絵が緻密になっていく様子をとっても興味深く知ることができて、見ていて飽きません。

表面で紹介したとおり、東洋の星座はあくまで星の特徴的な連なりですが、西洋では神話の登場人物や動物などを想像して夜空に描いていったのは、どう文化の違いなのかなあと考えてしまいます。

ちなみに、この書籍でも 10 世紀頃に中国で描かれた星図というものが紹介されていますが、キトラとは比べ物に

ならない稚拙なもので、大切に残されてきたキトラの貴重さが改めてわかりました。



メカが大好き FUJI フィルム X シリーズのレリーズを作る

普段つかいのコンパクトカメラとして、FujiFilm の XQ1 を使っていたのですが、画像センサーの上にごみが乗ってしまい、写した画像にホクロができてどうしようもなくなったので、保障期間が切れる前に修理に出しました。そしてその間のツナギとして、Yahoo オークションで X-M1 を手に入れたのですが、使い勝手と写りの良さにすっかりと気に入っています。(XQ1 のほうはどうするんだ)

この X-M1 は APS-C サイズなので天体写真も結構撮れます。そこで、必需品のレリーズを買おうとしたのですが、あまり台数が出ていないせいか結構高価でした。

実は、X シリーズはレリーズが USB 端子と共用になっており、簡単に自作できそうだったので、百元ショップでマイクロ USB ケーブルを買ってきて作ってみました。

AC ケーブルにつなぐ中間スイッチと組み合わせて総額 200 円で完成です。(タイマー端子もつけました)

XQ1 に接続したときは何も問題なかったのですが、X-M1 の場合はシャッターのタイムラグが少し長い感じでした。とりあえずは天体撮影には問題ないので、解決は持ち越しです。



編集雑記

今回はまた大きく遅れた発行となってしまいました。今回の遅延の原因は、7 月 16 日のコズミックフロント NEXT でありまして、あろうことかネタがもろかぶりしていたので、内容の修正に手間がかかってしまったのです。

キトラの星図や東洋の星図に関しては、宮島一彦氏がいろいろと調査されており、Web でも文献がヒットしてきて、とても参考にさせていただきました。

表面で比較して紹介したとおり、キトラの星図に描かれている星の絶体的な位置は結構アバウトです。確かに北極星の位置を見ると過去側にずれているのですが、このレベルの精度で、百年に 0.5 度程度の歳差を検出して年代を特定するというのは、いささか乱暴かなあと思いました。

Kz_Wada 和田一人 Kazuto.wada@nifty.com